

アルナシームの引退に寄せて③

つばき賞の2週前、池添騎手の騎乗停止の知らせ…。当時は折り合い面の不安が色濃く残っていただけに、調教から熱心に乗ってくださったことはとても心強かったです。それだけに、不安がよぎりましたが、それを打ち消すかのようなご提案が。「池添ジョッキーが乗れないため、空いている騎手を探ったところ、福永ジョッキー（現調教師）が乗れるとのことですが、よろしいですか?」。お断りする理由などございません。とある競馬関係者と話をしていた際に、「アルナシームに合う騎手は誰か?」という話題になり、偶然にも福永騎手の名前を挙げていたほどでした。早速調教にも乗ってくださり、「思ったよりも乗りやすかったし、良い馬です」というコメントをしてくださったと思いますが、そこは五十嵐助手や池添騎手の努力もあってこそで、そのようなコメントが出るぐらいの状況になっていたのだと思います。



そのつばき賞は、なんと7頭立て。確たる逃げ馬が不在で少頭数、コース形態を考えればスローペースになることが容易に想像でき、折り合って走れるのか、ドキドキしながら画面越しに見守りました。そうすると、今度はゲート入りを拒む姿が…。もう頭が爆発しそうでした。あれだけ緊張感が増した経験は、そうそうありません。結局、目隠しをしておのゲートインとなり、発走時刻が遅れてようやくスタート。ちなみに、その遅延の影響により、某競馬中継はレース途中で番組が終わり、ゴールまで放映できなかったようで、アルナシームに対する批判的な意見も多かったそうです。レースでは、不安を打ち消すかのような優等生なレースぶりを披露。テン乗りながら、しっかりと折り合わせ、これ以上ないという騎乗を見せていただき、さすが福永騎手というレース運びでした。それだけに、「これで負けてしまうのか…」と肩を落としましたが、逃げ馬に上がり 32 秒 9 の脚を使われては仕方ありません。負けはしましたが、希望の光が見えるレース内容でした。



発走調教再審査の制裁を受けてしまい、合格しなければ次のレースに出走できないということになりました。鞍上からは「クラシックに行っても楽しみがある」と言っていたことなどもあり、次走は中山・スプリングステークスが候補に上がりましたが、前述の審査が立ちふさがります。目標までの間隔があまりなく、練習を重ねると心身への負担が増すことにもなり、危機的とも言える状況でしたが、厩舎の皆様と福永騎手のサポートもあって無事に合格し、次走へ向かえることに。あれだけのトップジョッキーにも協力していただけたことは、本当にありがたいことでした。合格させるため、試験でも目隠しを使用することになりましたので、以後のレースでは、偶数枠であろうと、大外枠であろうと、目隠しをしての先入りを余儀なくされることとなりました。賛否両論があったのも事実ですが、最善を尽くしてくださった結果だと思っています。



スプリングステークスは中山でのレースのため、関東への輸送ということもあり、不安がよぎりましたが、陣営の取り組みも功を奏し、東スポ杯のようにイレ込むこともなく、良い雰囲気のパドックを周回できていました。努力の甲斐もあって、ゲート入り、そしてスタートも申し分なく、一瞬だけ行きたがるような素振りは見せたものの、全体的にリズム良く運べていましたので、直線で弾けるのではないかと思います。思いながら観ていましたが、思うような伸びは見られません。完璧に立ち回ってもらって負けるのは、ある意味一番へこむと思っていて、実際にかなり落ち込みました。しかし、当日は雨の影響もあってやや特異な馬場状態でしたし、あのレースは前に行くか、内を立ち回った馬たちが上位を占めたので、結果的に外枠がこたえた格好です。事実上、皐月賞への道は閉ざされ、ダービーの切符を確保するのも容易ではありません。まずは一度リフレッシュさせることとなりました。



次回に続く